

第42回人口問題審議会総会次第

昭和59年2月7日(火)

13時30分～15時30分

於 厚生省特別第一会議室

- 1 開 会
- 2 審議会の構成について
- 3 厚生事務次官挨拶
- 4 報 告
 - (1) 国際人口会議の概要について
 - (2) 第22回国連人口委員会及び国際人口会議準備委員会について
- 5 国際人口会議に対する人口問題審議会の対応について
- 6 閉 会

第42回人口問題審議会総会配布資料

- 1 人口問題審議会要覧
- 2 国際人口会議準備委員会について
- 3 第41回人口問題審議会議事要旨

資料	1
----	---

人口問題審議會要覽

昭和 59 年 2 月

厚生省大臣官房政策課

人口問題審議会要覧（目次）

	頁
1 厚生省設置法(抄)	(3)
2 人口問題審議会令	(5)
3 人口問題審議会部会及び特別委員会規程	(11)
4 人口問題審議会委員、専門委員及び幹事名簿	(13)
5 人口問題審議会委員及び専門委員異動一覧表	(19)
6 人口問題審議会総会経過概況	(49)
7 人口問題審議会の答申及び意見一覧	(81)

- 1 厚生省設置法（抄）
- 2 人口問題審議会令
- 3 人口問題審議会部会及び特別委員会規程

ノ 厚生省設置法 (抄)

[昭和24年5月31日]
[法律第151号]

(厚生省の任務)

第4条 厚生省は、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進を図ることを任務とし、左に掲げる国の行政事務及び事業を一体的に遂行する責任を負う行政機関とする。(一〜六号略)

七 人口問題に関する事務

(中間略)

(その他の附属機関)

第29条 次の表の上欄に掲げる機関は、本省の附属機関として置かれるものとし、その設置の目的は、それぞれ下欄に記載する通りとする。

種 類	目 的
人口問題審議会	人口問題に関する重要事項について、関係各大臣の諮問に依じて調査審議し、及び関係各大臣に対し意見を述べること。
(以下略)	(以下略)

2 前項に掲げる附属機関の組織，所掌事務及び委員その他の職員については，他の法律（これに基く命令を含む。）に別段の定がある場合を除く外，政令で定める。

2 人口問題審議会令

〔昭和28年8月14日〕
〔政令第189号〕

内閣は、厚生省設置法（昭和24年法律第151号）
第29条第2項の規定に基づき、この政令を制定する。

（所掌事務）

第1条 人口問題審議会（以下「審議会」という。）は、
関係各大臣の諮問に依じて人口問題に関し左に掲げる
事項を調査審議し、及びこれらに関し必要と認める事
項について関係各大臣に意見を述べるものとする。

- 一 生活水準に関する事項
- 二 産業構造に関する事項
- 三 資源に関する事項
- 四 受胎調節に関する事項
- 五 国民の資質向上に関する事項
- 六 前各号に掲げるものの外、人口問題に関する重要
事項

（組織）

第2条 審議会は、委員40人以内で組織する。

又 審議会に、専門の事項を調査するために必要があるときは、専門委員又二人以内を置くことができる。

(委員及び専門委員)

第3条 委員及び専門委員は、第1条各号に掲げる事項に関し学識経験のある者のうちから、厚生大臣が任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

又 専門委員は、当該専門の事項の調査審議が終ったときは、退任するものとする。

(非常勤)

第5条 委員及び専門委員は、非常勤とする。

(会長)

第6条 委員のうちから互選された者は、会長として会務を総理する。

又 会長に事故があるときは、あらかじめ委員のうちから互選された者が、その職務を行う。

(会議)

第7条 審議会は、会長が招集する。会長は、委員の4

分のノ以上が審議すべき事項を示して招集を請求したときは、審議会を招集しなければならない。

2 審議会は、委員の3分のノ以上が出席しなければ、議事を開き、議決を行うことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第8条 審議会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

第9条 審議会の部会に属すべき委員及び専門委員は会長が指名する。

第10条 審議会の部会において、その部会に属する委員のうちから互選された者は、部会長として部会の事務を掌理する。

2 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会に属する委員のうちから互選された者が、その職務を行う。

(部会の会議)

第11条 部会は、部会長が招集する。部会長は、部会に属する委員の4分のノ以上が審議すべき事項を示して招集を請求したときは、部会を招集しなければならない

ない。

- 2 部会は、委員の3分の1以上が出席しなければ、議事を開き、議決を行うことができない。
- 3 部会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。
- 4 専門委員は、当該専門の事項につき、議事を開き、議決を行う場合には、前2項の規定の適用については、委員とみなす。

(幹事)

第12条 審議会に幹事を置くことができる。

- 2 幹事は、関係行政機関の職員のうちから、厚生大臣が任命する。
- 3 幹事は、審議会の事務について行政機関との連絡にあたる。
- 4 幹事は、非常勤とする。

(庶務)

第13条 審議会の庶務は、厚生大臣官房政策課において処理する。

(雑則)

第14条 この政令に定めるものの外、審議会の運営に

関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

ノ この政令は、公布の日〔昭和28年8月14日〕から施行する。

ヌ 厚生省組織令（昭和27年政令第388号）の一部を次のように改正する。

第3条中第11号を第12号とし、以下ノ号ずつ繰り下げ、第10号の次に次のノ号を加える。

十一 人口問題審議会に関すること。

附 則（第1次改正）

この政令は、公布の日〔昭和30年9月7日〕から施行する。

（改正内容は、総務課で処理した庶務（第13条）を企画室（現政策課）で処理することとしたものである。）

附 則（第2次改正）

この政令は、公布の日〔昭和49年11月27日〕から施行する。

（改正内容：第12条第1項中「10人以内」を削る。）

附 則（第3次改正）（抄）

ノ この政令は、公布の日〔昭和53年5月23日〕から

施行する。

〔改正内容：第3条中「及び関係行政機関の職員」
を削る。〕

〔第4条ノ項中「学織経験のある者のうちから任命
された」を削り、「但し」を「ただし」に改める。〕

附 則（第4次改正）

この政令は公布の日〔昭和57年4月6日〕から施行
する。

〔改正内容：第13条中「厚生省大臣官房企画室」
を「厚生省大臣官房政策課」に改める。〕

3 人口問題審議会部会及び特別委員会規程

(部会)

第1条 人口問題審議会令(昭和28年8月14日)政令第189号)第8条の規定に基き、人口問題審議会に左の部会を置く。

1 第1部会

2 第2部会

2 第1部会(人口収容力に関する部会)においては、左の各号に掲げる事項を審議する。

1 人口収容力に関する事項

2 人口の地域的分布に関する事項

3 生活水準に関する事項

3 第2部会(人口調整に関する部会)においては、左の各号に掲げる事項を審議する。

1 人口の量的調整に関する事項

2 人口の資質向上に関する事項

(特別委員会)

第2条 人口問題審議会令第14条の規定に基き、前条に規定する部会のほか、特別の事項につき調査審議す

るため必要があると認めるときは、特別委員会を置くことができる。

又 前項の特別委員会の運営については部会の運営の例による。

4 人口問題審議会委員、専門委員及び幹事名簿

人口問題審議会委員名簿

(任期 59.1.26～61.1.25)
(ただし、※印は58.1.20～60.1.19)

(五十音順 敬称略)

(氏 名)	(現 職)
石橋 幹一郎	ブリジストンタイマ(株)取締役会長
伊部 英 男	年金制度研究開発基金理事長
岩間 英太郎※	日本体育大学長
及川 一 夫	日本労働組合総評議会副議長
岡崎 陽 一※	人口問題研究所長
久谷 与四郎	読売新聞社論説委員
国井 長次郎	家族計画国際協力財団常務理事
久保 秀 史	全国母子健康センター連合会常任理事
黒田 俊 夫	日本大学人口研究所名誉所長
小泉 明	東京大学教授
小島 博 志	毎日新聞社 人口問題調査会常任理事
小林 和 正	日本大学人口研究所次長
佐々波 秀 彦	国連地域開発センター所長
篠崎 信 男※	人口問題研究会理事長
鈴木 永 二	三菱化成工業(株)代表取締役会長
高島 隆 平	朝日生命保険相互会社代表取締役社長

塚本哲也	毎日新聞社論説委員
土居健郎	国立精神衛生研究所長
中根千枝	東京大学教授
縫田曄子	ジャーナリスト
橋本道夫	筑波大学教授
旗野寿雄	朝日新聞社論説委員
花岡堅而*	日本医師会会長
東 慎哉	全日本労働総同盟全国食品産業労働 組合同盟中央副委員長
菱沼従尹	寿命学研究会理事長
人見康子	慶応義塾大学教授
福武直	社会保障研究所長
松永英	国立遺伝学研究所長
松山栄吉	東京厚生年金病院産婦人科部長
安川正彬	慶応義塾大学教授
山本正淑	厚生団理事長
渡辺和美	東京商工会議所常議員

專門委員名簿（敬称略）

（任期 59.1.26~61.1.25）

（氏 名）	（現 職）
河 邊 宏	人口問題研究所人口移動部長
河 野 稠 果	〃 人口政策部長
阿 藤 誠	〃 人口資質部長
山 口 喜 一	〃 人口情報部長
村 松 稔	国立公衆衛生院衛生人口学部長
吉 沢 晋	〃 建築衛生学部長

幹事名簿（敬称略）

（氏名）	（現職）
柴田章平	経済企画庁総合計画局計画課長
川崎雅弘	科学技術庁計画局計画課長
野田実	環境庁企画調整局企画調整課長
長瀬要石	国土庁計画調整局計画課長
新田宏	外務省大臣官房領事移住部移住課長
大須敏生	大蔵省大臣官房調査企画課長
上野保之	文部省大臣官房企画室長
長尾立子	厚生省大臣官房政策課長
大賀忠直	農林水産省構造改善局農政部就業改善課長
島山襄	通商産業省大臣官房総務課長
山田正美	労働省大臣官房政策課長
熊新六	建設省計画局総括計画官
森繁一	自治省大臣官房企画室長

5 人口問題審議会委員及び専門委員異動一覧表

人口問題審議会委員異動一覽表

氏名	年	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	28													
(あ) 青木 和夫														
青木 均一														
安藝 皎一											12.18			
浅野 総一郎														
朝日 愛洋														
安立 正						2.1						5.31		
新居 善太郎											6.1			
新木 栄吉			12.1	12.21										
安藤 西一	11.1		10.31											
(い) 飯沼 一省	11.1											5.31		
伊大地 良太郎												10.1		
石井 英之助	11.1										3.24			
石井 平治														
石川 一郎	11.1				11.30									
石坂 泰三	11.1											5.31		
石橋 幹一郎														
石原 武夫		7.31	10.31											
伊藤 善市														

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
						5.1						4.30		5.31					
				3.5					8.27			6.1							
		2.15	3.5									4.30							
													2.29	5.31		1.20			
						5.1				4.30				7.20					
											4.30								
						3.4													
									10.1		9.22								
												5.1	4.30	5.31		2.19	1.26		1.25
												6.1		7.20					
						5.1						4.30		5.31					
												6.1							

氏名	年														
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
市川 誠															
一万田尚登	11.1	12.10													
稻葉 秀三										6.1		5.31			
井上 英二												10.1			
伊部 英男															
岩間 一郎															
岩間英太郎															
(イ) 上田 正夫															
上野 幸七			12.1		6.15										
牛丸 義留													6.2		
(エ) 江口見登留	11.1		1.6												
(オ) 及川 一夫															
大来佐武郎											12.18				
大志摩孫四郎						2.1			4.28						
太田 英一												10.1			
太田 薫							6.10							8.30	
大浜 英子						2.1									
大堀 弘										8.30		5.31		10.1	

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	
				3.5		3.4														
						3.4														
														6.25	6.24	1.20		1.19		
										5.1	4.30 6.1		5.31							
										5.1	4.30 6.1		5.31 7.20		7.19	1.26			1.25	
						5.1				4.30										
6.6																				
			2.15	3.5				4.30						4.22	4.30 6.1	5.30 7.20		7.21	1.26	1.25
												6.1			2.29					
						3.4														
						3.4														
						3.4														

氏名	年													
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
大山 正														12.2
岡崎 文規								7.18						
岡崎 陽一														
小沢 龍										6.1			4.20	
尾高 邦雄								3.25				5.31		
小畑 惟清			12.1		5.8									
小汀 利得			12.1						1.31					
尾本 信平														
(か) 賀川 豊彦	11.1							4.23						
加藤 寛														
金子 鋭												10.1		
鹿野 義夫														
亀井 光								12.1		2.16				
川出 千速														
(き) 木内 信蔵														
北岡 寿逸								3.25						9.30
木下 剛														
木村忠二郎	11.1				5.20	2.1						5.31		

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
								4.30											
						3.4													
																1.20		1.19	
												6.1		5.31		7.19			
														4.20					
						5.1						4.30		5.31		7.19			
												6.1		7.20					
						3.4													
		12.5		1.22															
8.15	9.20																		
						5.1						4.30		5.31					
												6.1							
																7.20		7.19	

氏名	年													
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
(一) 鯨岡 兵輔														
久谷与四郎														
工藤昭四郎					5.8					3.24				
国井長次郎														
久保 秀史														
熊崎 正夫														
久留島秀三郎										6.1				
黒沢 潤三		7.9	10.31											
黒田 俊夫														
(二) 小泉 明														
小出 栄一								6.15		7.10				
弘津 恭輔														
小島 博志														
小島 文夫				12.1					1.31					
五島 貞次								3.25						
小林 和正														
小林 貞次														
小林 節夫														

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
	2.2	1.30																1.26	1.25
										5.1	4.30	6.1	5.31	7.20	7.19	1.26		1.25	
											6.1	5.31	7.20	7.19	1.26		1.25		
		8.12		1.22															
				1.22															
							9.17	5.1	5.25	4.30	6.1	5.31	7.20	7.19	1.26		1.25		
												7.20	7.19	1.26		1.25			
	2.2	1.30																1.26	1.25
				1.22										7.20	7.19	1.26		1.25	
							9.17			4.30	6.1	5.31							
			3.5							4.30									

氏 名	年														
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
小林繁次郎												10.1			
古屋 芳雄								3.25							
(之) 斎藤 邦吉	11.1				8.1										
斎藤 斉			12.1						1.23						
坂元貞一郎															
桜田 武												10.1	8.6		
笹山 忠夫	11.1		10.31												
佐々波秀彦															
佐藤 朝生						7.19		1.31							
里谷 和夫															
沢田 節蔵	11.1											5.31			
澤村 嘉一															
(シ) 篠崎 信男															
柴田 鉄治															
渋谷 敬三	11.1									3.24					
志村 富寿															
下条 康磨	11.1				11.30										
下村 宏	11.1				11.30										

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
						3.4													
							2.22												
					7.1	7.27		5.1			4.30 6.1		5.31 7.20		7.19				
																		1.26	1.25
						5.1		10.1											
										5.1	4.30 6.1		2.20 死亡						
								5.25					5.24	1.20				1.19	
											6.1		5.31 7.20		7.19				
		12.20						9.17											

氏名	年	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	28													
白井十四雄														
(才) 杉本 利男						2.1		1.31						
鈴木 永二														
住木 利男						2.1		1.31						
(た) 高島 隆平														
高杉 晋一												10.1		
高田 浩運											12.10	5.31		
高田 正己								8.17	11.17					
太宰 博邦									11.17	3.24		10.1		9.30
滝田 実			12.1									5.31		
武見 太郎					5.8									
田中 栄一			2.18		8.21									
田中 克巳														
田辺 繁雄					5.20	11.30								
谷口 寛			9.6	10.31										
田宮 猛雄		11.1	2.9											
(こ) 塚本 哲也														
(て) 寺尾 琢磨		11.1										5.31		

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
						5.1				4.30									
																	1.26		1.25
				1.22													1.26		1.25
					1.22														
						5.1		4.30				7.13	6.25		6.24				
								7.14											
						5.1					4.30				5.31				
											6.1								
															7.20		7.19	1.26	1.25

氏名	年														
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
(㊦) 土居 健郎															
土居 山義															
富樫 総一										2.16		5.31			
徳永 久次					7.26			6.15							
(㊧) 永井 享	11.1											5.31			
中地 熊造												10.1			
中西 実					8.1	11.30									
中根 千枝															
中野 正一													6.10		
長村 貞一	11.1	2.30													
那須 皓	11.1				11.30										
(㊨) 西島 芳二			12.1											9.30	
(㊩) 縫田 暁子															
(㊪) 根津嘉一郎													8.6		
(㊫) 野村兼太郎	11.1								6.22						
(㊬) 橋本 道夫															
濱野 寿雄															
花岡 堅而															

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
										8.22	4.30	6.1		2.29			1.26		1.25

氏名	年	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
浜口 雄彦	11.1												5.31		
林 恵海	11.1												5.31		
原口 幸隆				10.12				6.10							
(6) 東 慎哉															
樋口 弘其									3.25						
菱沼 従尹															
人見 康子															
(7) 福田 邦三	11.1												5.31		
福武 直													10.1		
藤田 藤太郎	11.1			10.11											
藤林 敬三	11.1											9.15			
藤山 愛一郎			12.1		7.10										
藤原 節夫					8.21	11.30									
古屋 享												6.1	5.31		
(8) 逸見 謙三															
(9) 堀田 健男								2.1							9.30
堀 秀夫												7.9	5.31		11.24
堀井 利勝															12.1

氏名	年															
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41		
堀内 謙介												10.1				
堀川 淳弘																
本田 親男	11.1		10.31													
本城 和彦																
(ま) 前川 一男																
前田 多門	11.1									3.24						
正木 克										6.1						
松岡 駒吉	11.1		10.31													
松永 英																
松永 正男																
松村 敬一											12.18	5.31				
松本 滝蔵			1.7.15													
松山 榮吉																
(み) 美濃口時次郎												5.31				
三原 信一										6.1						
三治 重信														12.1		
宮崎 太一	11.1	12.14														
(む) 村上 茂利																

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
						3.4													
								5.1			4.30 6.1			5.30 7.20		7.19			
			1.23											7.20		7.19			
						3.4													
					1.22														
														7.20		7.19	1.26		1.25
			10.1																
						5.22													
									5.1		4.30 6.1			5.30 7.20		7.19	1.26		1.25
			11.30																
			4.1		1.22														

氏名	年	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	28													
村瀬 直養	11.1											5.31		
村田 省蔵	11.1				3.15									
村山 道雄	11.1		10.31											
(6) 茂木 啓三郎														
森田 優三	11.1											5.31		
森永 貞一郎										6.1	7.1			
諸井 貫一	11.1											5.31		
(7) 八木 淳														12.1
安川 正彬														
安田 巖							7.10	1.31						
柳沢 鍊造														
矢野 一郎	11.1		10.31											
矢野 智雄														
山際 正道	11.1										3.24			
山口 正義														
山田 雄三														
山高 しげり	11.1										3.24			
山中 篤太郎	11.1												7.6	

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
									5.1			4.30							
			1.22						5.1			4.30	5.31		7.19	1.26		1.25	
									5.1				6.1	7.20					
									5.1		8.22								
									6.20	7.1									
									5.1		2.1	4.30	5.31						
										5.1		6.1							
2.8		7.7		3.5								4.30	5.31		7.19				
												6.1	7.20						

氏 名	年															
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41		
山本 杉	11.1							1.31								
山本 登												10.1				
山本 正淑																
山本 幹夫																
山本 光春			12.1		11.30											
(カ) 渡辺 和美																
渡辺 由司																

42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
								4.30											
6.6	8.12																1.26	1.25	
						5.1					4.30	6.1	5.31						
														7.20	7.19	1.26	1.25		
				7.1				4.30											

人口問題審議会専門委員異動一覽表

氏 名	在 任 期 間
青 井 和 夫	37. 9. 15 ~ 48. 5. 1
青 木 尚 雄	50. 3. 11 ~ 55. 4. 17
青 鹿 明 司	44. 8. 15 ~ 46. 11. 17
渥 美 節 夫	41. 10. 15 ~ 44. 8. 12
阿 藤 誠	58. 1. 20 ~ 現 在
穴 山 德 夫	47. 9. 21 ~ 48. 7. 27
網 野 智	39. 4. 17 ~ 39. 12. 1
飯 田 良 一	35. 9. 1 ~ 36. 9. 1
伊 藤 善 市	37. 9. 15 ~ 48. 5. 1
稻 葉 秀 三	28. 12. 10 ~ 37. 3. 16
伊 部 英 男	{ 37. 1. 17 ~ 39. 4. 17 39. 12. 1 ~ 44. 8. 12
岩 間 英太郎	46. 8. 21 ~ 49. 9. 17
上 田 正 夫	37. 9. 15 ~ 48. 5. 1
牛 丸 義 留	31. 6. 1 ~ 31. 7. 1
江 守 堅太郎	36. 9. 1 ~ 38. 4. 22
大 崎 康	34. 8. 25 ~ 36. 12. 12
大 島 寛 一	34. 6. 16 ~ 35. 6. 24
大 山 正	35. 3. 25 ~ 36. 11. 17

氏名	在任期間
岡崎文規	{ 28. 12. 10 ~ 34. 4. 1 34. 6. 10 ~ 35. 7. 18
岡崎陽一	51. 5. 25 ~ 58. 1. 19
小田村四郎	46. 11. 17 ~ 47. 9. 21
尾村偉久	33. 7. 28 ~ 38. 7. 9
加藤寛	40. 4. 12 ~ 48. 5. 1
加用信文	28. 12. 10 ~ 48. 5. 1
河邊宏	56. 7. 20 ~ 現在
北岡寿逸	28. 12. 10 ~ 35. 3. 25
北川力夫	46. 1. 13 ~ 47. 9. 21
久保秀史	42. 6. 5 ~ 48. 5. 1
黒木利克	{ 31. 7. 1 ~ 34. 8. 25 36. 11. 17 ~ 39. 10. 2
黒田俊夫	43. 2. 10 ~ 49. 9. 17
河野稠果	54. 6. 15 ~ 現在
木暮保成	51. 11. 18 ~ 53. 5. 23
小林和正	49. 9. 17 ~ 50. 3. 11
小林陽太郎	37. 9. 15 ~ 48. 8. 15
古屋芳雄	{ 28. 12. 10 ~ 31. 9. 25 31. 12. 21 ~ 35. 1. 31
斉藤正	40. 9. 21 ~ 44. 8. 15

氏 名	在 任 期 間
坂 元 貞一郎	44. 8. 12 ~ 46. 7. 1
篠 崎 信 男	40. 4. 12 ~ 51. 5. 25
柴 田 徳 衛	37. 9. 15 ~ 48. 5. 1
清 水 汪	52. 9. 7 ~ 53. 5. 23
下 條 康 磨	40. 8. 2 ~ 40. 10. 31
曾根田 郁 夫	49. 9. 17 ~ 51. 11. 18
高 柳 忠 夫	40. 9. 14 ~ 42. 11. 18
竹 下 精 紀	39. 10. 2 ~ 41. 8. 26
舘 稔	28. 12. 10 ~ 47. 3. 21
舘 林 宜 夫	39. 12. 1 ~ 42. 9. 19
谷 野 世 一	33. 2. 1 ~ 40. 9. 14
内 藤 誉三郎	35. 7. 18 ~ 37. 1. 23
中 原 龍之助	40. 10. 8 ~ 42. 9. 19
橋 口 収	42. 11. 18 ~ 44. 8. 15
浜 英 彦	50. 4. 10 ~ 56. 3. 31
林 茂	48. 6. 5 ~ 52. 1. 9
原 徹	49. 9. 17 ~ 50. 9. 23
廣 瀬 治 郎	45. 12. 21 ~ 46. 1. 8

氏 名	在 任 期 間
福 田 繁	37. 2. 16 ~ 40. 9. 21
本 田 龍 雄	28. 12. 10 ~ 42. 12. 3
牧 賢 一	37. 9. 15 ~ 48. 5. 1
松 下 廉 蔵	46. 7. 1 ~ 47. 9. 21
松 永 勇	38. 5. 17 ~ 40. 9. 14
美濃口 時次郎	28. 12. 10 ~ 37. 3. 16
三 原 信 一	30. 12. 1 ~ 37. 3. 16
宮 地 茂	44. 8. 15 ~ 46. 8. 21
村 松 稔	48. 8. 15 ~ 現 在
森 山 真 弓	49. 9. 17 ~ 53. 5. 23
諸 澤 正 道	50. 12. 26 ~ 53. 5. 23
安 川 正 彬	40. 10. 1 ~ 48. 5. 1
安 嶋 彌	49. 9. 17 ~ 50. 12. 26
山 口 喜 一	56. 7. 20 ~ 現 在
山 口 正 義	{ 28. 12. 10 ~ 33. 7. 28 35. 7. 18 ~ 48. 5. 1
山 本 幹 夫	40. 4. 12 ~ 48. 5. 1
横 田 陽 吉	47. 9. 21 ~ 49. 6. 11
吉 沢 晋	48. 8. 15 ~ 現 在

氏 名	在 任 期 間
吉 田 信 邦	33. 3. 6 ~ 34. 6. 16
若 松 栄 一	38. 7. 9 ~ 40. 10. 1

6 人口問題審議会總會經過概況

6 人口問題審議会総会経過概況

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第1回	28.11.13	内閣総理大臣官邸ホール	<p>内閣総理大臣挨拶</p> <p>戦後における人口対策審議の経過報告</p> <p>厚生省人口問題審議会及び財団法人人口問題研究会人口政策委員会、衆議院の人口問題に関する決議、内閣人口問題審議会等についての報告</p> <p>現時の人口問題の情勢について</p> <p>人口問題研究所長 岡崎文規</p>	<p>内閣総理大臣 吉田茂</p> <p>代理 緒方副総理 会長 互選 下村宏 会長代理 永井亨</p> <p>(配布資料)</p> <p>「戦後における人口対策審議の経過概要」</p> <p>「委員名簿」</p>
第2回	28.12.17	虎の門共済会館	人口問題に関する各委員の意見	

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第3回	29. 1. 22	日本工業クラブ	<p>人口問題審議会部会及び特別委員会規程案について</p> <p>人口問題審議会の審議事項並びに部会設置について討論し、同規程の修正案を作成、同審議会終了後各委員に対して修正案について賛成の可否を通知により採決</p>	
第4回	29. 8. 24	郵政会館	<p>人口の量的調整に関する決議案について</p> <p>上議決議案を可決 同決議文を関係各大臣あて意見を述べる。</p>	<p>(決議)</p> <p>「人口の量的調整に関する決議」</p>

回数	開催 年月日	開場 場所	議題並びに審議事項	備考
第5回	30.8.20	郵政会館	人口収容力に関する 決議について 上記決議案を可決、 同決議文を関係大 臣あて意見を述べ る。	(決議) 「人口収容力に 関する決議」
第6回	30.12.8	郵政会館	厚生大臣挨拶 会長及び会長代理 互選 審議経過の説明 部会及び特別委員 会委員指名	厚生大臣 小林英三 会長 下村 宏 会長代理 永井 亨 (配布資料) 「人口問題審 議会関係法令」 「委員、専門 委員、幹事名 簿」

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備 考
第7回	31. 1. 26	富士銀行本店	昭和31年度の審議 事項について 山際委員、海外視察 報告 国連アジアの極東人 口セミナー出席報 告 東南アジアの人口	「人口の量的 調整に関する 決議」 「人口の収容 力に関する決 議」 「総会、部会 の議事録(但 し、新任の委 員のみ)」

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第8回	32. 1. 18	日本工業 クラブ	<p>問題について</p> <p>人口問題研究所 黒田 技官</p> <p>潜在失業に対する件</p> <p>人口問題研究会が 行った上記の決議 について説明</p>	<p>(配布資料)</p> <p>「潜在失業対 策に関する決 議」</p> <p>(財団法人人口 問題研究会)</p> <p>「同」要旨</p> <p>(同)</p> <p>「人口問題審 議会要覧」</p>
第9回	32. 2. 12	郵政会 館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>潜在失業対策に関す る件</p> <p>前回説明のあった 上記決議文を審議</p>	<p>厚生大臣 神田 博</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第10回	32.3.8	全国町 村会館	<p>の議題として検討 を行う。</p> <p>潜在失業対策に関する件</p> <p>通産、建設両省から意見聴取</p>	関係局長
第11回	32.3.29	富士銀行 本店	<p>潜在失業対策に関する件</p> <p>経済企画庁から意見聴取</p>	<p>関係部長</p> <p>(配布資料)</p> <p>「潜在失業対策に関する決議」</p> <p>「同要旨」</p> <p>「今後の人口と就業」(人口問題研究会)</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第12回	32. 4. 26	三和銀行新橋支店	<p>潜在失業対策に関する件</p> <p>文部省から意見聴取</p> <p>(総会後日文部省より内かんにより審議会あて資料の送付を受ける。)</p> <p>「義務教育人口推移表」「いわゆる夜間中学校教育とその生徒数」「大学卒業者の初任給」</p> <p>「ウルガイの教育は小学校から大学</p>	<p>人口対策委員会第1回中間報告)</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
			<p>まで無償であるか 否かについて」「都 道府県別不正常授 業学級数およびそ の解消に必要な教 室数」「設置者別 予備校数、生徒数 調」</p>	
第13回	33. 2. 12	九段会 館	<p>厚生大臣挨拶 会長互選、会長挨拶、 会長代理互選 部会及び特別委員会 委員指名 経過報告(企画室長) 潜在失業対策に関す る件 人口白書に関する件</p>	<p>厚生大臣 (臨時代理) 国務大臣 郡 裕一 米田厚生事務 次官 会長 永井 亨 会長代理 飯沼一省 (配布資料)</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第14回	33.2.17	九段会館	潜在失業対策に関する件	「人口問題審議会要覧」
第15回	33.2.27	九段会館	潜在失業対策に関する決議案について 後日、欠席した委員及び専門委員に対し公文書により決議案の意見を求める。	
第16回	33.4.16	地方職員会館	潜在失業対策に関する決議について 上記決議文を可決関係大臣あて具申する。	(決議) 「潜在失業対策に関する決議」 (配布資料) 「同決議文」

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第17回	34.3.16	全国町 村会館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>国連を通じて見た世 界人口の趨勢につい て（帰朝報告）</p> <p>（国連第10回人口 委員会出席）</p> <p>人口問題研究所 総務部長</p> <p> 館 稔</p> <p>インドにおける家族 計画について（帰朝</p>	<p>「同決議附属 参考資料」</p> <p>「人口問題審 議会便覧」</p> <p>「人口問題審議 会会長談話」</p> <p>「同決議の要旨」</p> <p>厚生大臣 坂田道太</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
			報告) (第6回国際家族計 画会議及び理事会に 出席) 国学院大学教授 北岡 寿逸	
第18回	34.6.16	郵政会 館	人口白書について 上記白書を可決、 関係大臣あて具申 する	(配布資料) 「人口白書」 「同 要旨」
第19回	34.10.19	業健 保会館	わが国人口の資質向 上対策について 南米移民について (帰朝報告) 日本海外移住振興 株式会社社長 大志摩 孫四郎	

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第20回	35. 3. 25	薬業健康 保会館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>新委員紹介</p> <p>会長及び同代理互選 部会及び特別委員会 委員指名</p> <p>審議経過報告(大崎 企画室長説明)</p> <p>日本人口資質に関する 意見聴取</p> <p>人口の資質の現状 と問題点</p> <p>日本寿命学研究会 理事長</p> <p>渡辺 定</p> <p>産業衛生の現状及 び将来</p> <p>労働省労働衛生 研究所長</p> <p>山口正義</p>	<p>厚生大臣</p> <p>渡辺良夫</p> <p>内藤政務次官 代読</p> <p>会長</p> <p>永井 亨</p> <p>会長代理</p> <p>飯沼一省</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第21回	35. 8. 9	薬業健康保会館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>日本人口の資質向上 対策に関する意見聴 取</p> <p>児童の教育の現状 と将来の問題点</p> <p>文部省初等教育 局長</p> <p>内藤 誉三郎</p> <p>人間の知能と性格</p> <p>国立精神衛生研 究所心理学部長</p> <p>加藤 正明</p>	<p>厚生大臣</p> <p>中山マサ</p>
第22回	36. 7. 18	九段会館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>日本人口の資質向上 に関する事項 (講演)</p> <p>工業と労働力の質 の問題</p>	<p>厚生大臣</p> <p>古井喜美</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第23回	36.12.7	全国都市会館	慶応義塾大学教授 川田 寿 厚生大臣挨拶 人口の資質向上に関する件	厚生大臣 灘尾 弘吉 (配布資料) 「人口資質向上に関する対策要綱」
第24回	37.6.11	日本都市センター	厚生大臣挨拶 会長及び同代理互選 部会及び特別委員会 委員指名 審議経過報告 わが国の人口問題に関する意見聴取 (演題) わが国の人口問題	厚生大臣 灘尾 弘吉 会長 永井 亨 会長代理 飯沼 一省

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第25回	37.7.12	全国町 村会館	<p>の現状と将来</p> <p>人口問題研究所長 館 稔</p> <p>「地域開発に関し 人口問題の見地か ら特に留意すべき 事項について」</p> <p>諮問第ノ部会に検討 付託</p> <p>人口資質の向上対策 に関する建議につい て</p>	「人口資質向 上対策に関す る決議」
第26回	38.8.17	虎の門共 済会館	<p>厚生大臣挨拶</p> <p>大臣諮問の答申案に ついて</p> <p>「地域開発に関し 人口問題の見地か</p>	<p>厚生大臣 小林武治</p> <p>「地域開発に 関し、人口問 題の見地から</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第27回	39.12.2	薬業健保会館	<p>ら特に留意すべき事項について意見を可決」</p> <p>上記意見を厚生大臣に具申し、関係各大臣に意見を述べる。</p> <p>厚生大臣挨拶</p> <p>会長及び同代理互選部会及び特別委員会委員指名</p> <p>経過報告</p> <p>最近の人口問題にかかる報告</p> <p>(部会)</p> <p>部会長及び同代理互選</p>	<p>特に留意すべき事項」について意見</p> <p>厚生大臣 神田 博 会長 久留島秀三郎 会長代理 桜田 武</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第28回	42.4.26	都道府県会館	<p>厚生大臣挨拶 会長及び同代理互選 部会及び特別委員会 委員指名 諮問 「わが国最近の人口動向に鑑み人口問題上特に留意すべき事項について」 審議経過 諮問参考資料説明 諮問審議特別委員会設置 人口白書の情況報告</p>	<p>厚生大臣 坊 秀 男 (配布資料) 諮問書(参考資料) 人口問題審議会便覧 人口問題研究所年報 最近の主な人口統計 会長 久留島秀三郎 会長代理 高杉 晋一</p>
第29回	44.8.5	麴町会館	<p>厚生大臣挨拶 会長及び会長代理互選</p>	<p>厚生大臣 斎藤 昇 (配布資料)</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第30回	44.3.19	農林年金会館	<p>部会及び特別委員会 委員指名</p> <p>諮問に対する審議経過報告 (部会)</p> <p>部会長及び同代理互選</p> <p>厚生大臣挨拶</p> <p>会長及び同代理互選</p> <p>部会及び特別委員会 委員指名</p> <p>審議経過</p> <p>わが国人口の最近の動向について資料説明聴取</p> <p>人口問題研究所</p>	<p>わが国人口再生産の動向についての意見 (関係資料, 検討資料)</p> <p>会長 久留島秀三郎</p> <p>会長代理 高杉晋一</p> <p>厚生大臣 内田常雄 (配布資料)</p> <p>最近の主な人口統計資料</p> <p>会長 新居善太郎</p> <p>会長代理 堀内謙介</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第31回	46.10.21	電設健保会館	<p>人口政策部長 上田 正夫</p> <p>諮問審議の方針について審議の結果諮問審議特別委員会を引き続き存置し、検討することとなった。</p> <p>(部会)</p> <p>部会長及び同代理互選</p> <p>諮問審議特別委員会経過報告</p> <p>大臣諮問の答申案について</p> <p>「最近における人口動向と留意すべき問題点について」</p>	<p>厚生大臣 斎藤 昇</p> <p>最近における人口動向と留意すべき問題点について</p> <p>(答申)</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第32回	48.2.6	厚生省 特別会議室	<p>意見を可決 上記意見を厚生大臣に具申し、関係各大臣に意見を述べる。</p> <p>アジア人口会議について 昭和48年度厚生省予算について</p>	<p>副題 人間性の回復と社会開発の再認識</p> <p>厚生大臣 齊藤邦吉</p>
第33回	48.6.21	厚生省 特別会議室	<p>厚生大臣挨拶 会長及び会長代理互選 部会及び特別委員会委員指名 人口問題審議会部会及び特別委員会規程の一部改正</p>	<p>厚生大臣 齊藤邦吉 坂元事務次官代読 会長 新居善太郎 会長代理 山田雄三</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第34回	49.4.15	都道府 県会館	<p>(部会)</p> <p>部会長及び同代 理互選</p> <p>審議経過</p> <p>世界人口会議及び 世界人口年につい て</p> <p>人口問題研究所 人口政策部長 黒田 俊夫</p> <p>人口白書について 審議経過の報告及 び承認</p> <p>国連世界人口会議対 処方針についての意 見について 審議経過の報告及 び承認</p>	<p>(配布資料)</p> <p>1 日本人口の 動向(宋)</p> <p>2 白書小委員 会で討議さ れた主要論 点(山田メ モ)</p> <p>3 国連世界人</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第35回	49.9.25	都道府 県会館	<p>厚生大臣挨拶 齋藤 邦吉</p> <p>世界人口会議報告 厚生省大臣官房企画室長 中野 徹雄 慶応義塾大学教授 安川 正彬</p> <p>国立公衆衛生院 衛生人口学部長 村松 稔</p> <p>人口問題研究所長 黒田 俊夫</p> <p>医師と人口変せんに 関する国際会議報告 日本医師会会長 武見 太郎</p>	<p>口会議対処 方針につい での意見(案)</p> <p>(配布資料)</p> <p>1 世界人口会 議における 齋藤首席代 表演説</p> <p>2 世界人口行 動計画</p> <p>3 世界人口会 議に出席し て(大来レ ポート)</p> <p>4 世界医師会 総会会議プ</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第36回	52.6.17	厚生省特別会議室	<p>厚生事務次官挨拶 北川 力夫</p> <p>会長および会長代理 互選</p> <p>部会および特別委員会委員指名 報告</p> <p>世界の人口問題について 人口問題研究所長 篠崎 信男</p> <p>日本の将来人口の推計について</p>	<p>ログラム委員会による人口変化会議に関する決議案</p> <p>会長 山田 雄三</p> <p>会長代理 山口 正義 (配布資料)</p> <p>1 人口問題審議会要覧</p> <p>2 世界人口の将来動向</p> <p>3 日本の将来人口新推計</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
			<p>人口問題研究所 人口政策部長 青木 尚雄</p> <p>人口移動の最近の 状況について</p> <p>人口問題研究所 人口移動部長 岡崎 陽一</p> <p>最近における日本 の出生力の動向に ついて</p> <p>人口問題研究所 人口資質部長 浜 英彦</p> <p>今後の運営について</p>	<p>について (昭和57年11月)</p> <p>4 地域人口移 動に関する 調査の概報</p> <p>5 女子人口再生 産率の推移</p> <p>6 女子人口再 生産率の国 際比較</p>
第37回	54.7.6	竹橋会館	<p>厚生事務次官挨拶 曾根田 郁夫</p> <p>会長および会長代理 互選</p>	<p>厚生大臣 橋本龍太郎 会長 山田 雄三</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
			部会および特別委員 会委員指名 報告 1 第20回国連人口委 員会の概況について 人口問題研究所長 篠崎 信男 2 世界人口の新しい 動向 人口問題研究所 人口情報部長 河野 稔果 3 地域人口移動の 最近の動向 人口問題研究所 人口移動部長 岡崎 陽一 4 昭和53年度実施 調査「長期人口	会長代理 山口 正義 (配布資料) 1 人口問題審 議会要覧 2 報告要旨

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第38回	55.8.7	厚生省 特別会 議室	<p>変動に対する地域住民の意識と環境に関する調査について」</p> <p>人口問題研究所 人口資質部長 浜 英彦</p> <p>今後の運営について 出生力動向に関する特別委員会設置</p> <p>厚生大臣挨拶 齋藤 邦吉</p> <p>出生力動向に関する特別委員会報告について</p> <p>審議経過の報告及び承認報告書大臣提出</p>	<p>(配布資料)</p> <p>1 人口問題審議会委員及び専門委員名簿</p> <p>2 出生力動向</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第39回	56.8.6	厚生省特別会議室	<p>厚生大臣挨拶 村山 達雄 会長および会長代理 互選 部会所属委員指名 報告 1 最近における人口の動向について 人口問題研究所 人口情報部長 山口 喜一</p>	<p>に関する特別委員会審議経過 3 出生力動向に関する特別委員会報告 会長 山田 雄三 会長代理 福武 直 (配布資料) 1 人口問題審議会要覧 2 最近の主な人口統計資料</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
			<p>2 人口に関する国際会議の概況について</p> <p>① 国連人口委員会について 人口問題研究所長 篠崎 信男</p> <p>② 第3回アジア太平洋人口会議について 厚生省大臣官房企画室長 長門 保明</p> <p>3 出生力動向に関する社会・経済的分析について 人口問題研究所 人口政策部長 岡崎 陽一</p>	<p>3 人口に関する国際会議の概況</p> <p>4 出生力動向に関する社会・経済的分析</p> <p>5 将来人口推計の基本的な考え方</p> <p>6 人口推計に関する参考資料</p>

回数	開催 年月日	開催 場所	議題並びに審議事項	備考
第40回	57. 1. 14	厚生省 特別会 議室	<p>4 将来人口推計の 基本的考え方に ついて 人口問題研究所 人口資質部長 河野 稠果</p> <p>厚生大臣挨拶 森下 元晴</p> <p>報告</p> <p>1. 人口に関する国際 会議の概要について 厚生省大臣官房 企画室長 朝本 信明</p> <p>2. 日本の将来人口新 推計について 人口問題研究所 人口資質部長 河野 稠果</p>	<p>(配布資料)</p> <p>1. 人口に関する国際会議 の概況につ いて</p> <p>2. 日本の将来 人口新推計 について</p>

回数	開催年月日	開催場所	議題並びに審議事項	備考
第41回	58. 1. 21	竹橋会館	<p>厚生事務次官挨拶 山下 真臣</p> <p>報告</p> <p>1. 第8次出産力調査結果について 人口問題研究所 人口資質部長 阿藤 誠</p> <p>2. 最近の人口動向について 人口問題研究所 人口情報部長 山口 喜一</p> <p>3. 第3回アジア太平洋人口会議について 人口問題研究所長 岡崎 陽一</p>	<p>厚生大臣 林 義郎</p> <p>(配布資料)</p> <p>1. 第8次出産力調査の概要</p> <p>2. 最近の主な人口統計資料</p> <p>3. 第3回アジア太平洋人口会議について</p>

7 人口問題審議会の答申及び意見一覧

ク 人口問題審議会の答申及び意見一覧

1 厚生大臣への答申

- (1) 「地域開発に関し、人口問題の見地から特に留意すべき事項」についての意見（答申）

（昭和38年8月17日 第26回総会）

- (2) わが国人口再生産の動向についての意見（中間答申）

（昭和44年8月5日 第29回総会）

- (3) 最近における人口動向と留意すべき問題点について
（答申）

（昭和46年10月21日 第31回総会）

2 関係機関への意見具申等

- (1) 人口の量的調整に関する決議

（昭和29年8月24日 第4回総会）

- (2) 人口収容力に関する決議

（昭和30年8月20日 第5回総会）

- (3) 潜在失業対策に関する決議

（昭和33年4月16日 第16回総会）

- (4) 人口白書について

（昭和34年6月16日 第18回総会）

(5) 人口資質向上対策に関する決議

(昭和37年7月12日 第25回総会)

(6) 人口白書について

(昭和49年4月15日 第34回総会)

(7) 国連世界人口会議対処方針についての意見

(昭和49年4月15日 第34回総会)

(8) 出生力動向に関する特別委員会報告

(昭和55年8月7日 第38回総会)

国際人口会議準備委員会について

1 1984年国際人口会議開催の背景

2 準備委員会の報告

1 1984年国際人口会議開催の背景

1974年8月にルーマニア政府の招聘により、ブカレストで国連世界人口会議が開催された。同会議には136カ国の政府と各国際機関・団体の代表が出席し、いくたの曲折を経て、各国の合意によって世界人口行動計画が採択された。同年12月の国連総会において同会議の報告がなされ、行動計画が経済開発、生活の質、人権、及び基本的自由を増進させるために国際社会の運用する一つの手段であることが確認された。

国連経済社会理事会は1979年に人口委員会に対して、世界人口会議以降の10年間における人口動向を再検討するための国際会議を開くかどうかについて討議するように要請した。1981年の経済社会理事会は人口委員会の勧告に基づき、人口と社会経済開発の關係に重点を置いた国際人口会議を1984年を開くことを決議した。さらに同理事会は、「世界人口行動計画」（1974年）の原則及び目的が今日においても完全に有効であることを認め、1984年の会議は、その枠組の中で行われるべきであることを決議した。

1983年に同理事会は、人口委員会が国際人口会議の準備委員会として活動する際に、「世界人口行動計画」実施推進のための勧告の作成に重点を置くべきであることを決議した。

（ブカレスト以後の人口問題）

1974年の世界人口会議の時点において世界人口は年率約2%で増加していたが、現在の増加率は約1.7%と推定されている。このような人口増加率の低下は、主として先進諸国と中国においてそれが大幅に低下したことによる。しかし、中国を除く発展途上諸国では出生率低下が死亡率低下によって相殺されたため、人口増加率が事実上変わらなかった。

現在、世界人口は毎年7,800万人ずつ増加しており、今世紀末までには毎年の増加数が8,900万人に達するものと予測されている。このような人口急増は新規雇用創出の必要性の増大、学齢人口急増、人口高齢化をもたらし、今後も特に発展途上諸国にとって深刻な問題となろう。

人口増加率低下をもたらした出生率と死亡率の変化は、多種多様な社会経済条件の変化ならびに政府の直接的な政策介入の結果である。社会経済開発が人口問題の効果的な解決の基礎であることは、行動計画に述べられているし、それが大きな人口学的変化を伴うことも行動計画の見直し・評価において明らかにされている。

発展途上地域において高い死亡率、出生率、人口増加率によってもたらされる問題のほかに、今後ますます重要になる人口問題がいくつかある。一つは農村での高い自然増加率に由来し、大都市や大都市圏への人口移動の加速化による急激な都市化である。人口400万人以上の都市の数は1950年に全世界で11に過ぎなかったが、1980年には38に増え、2000年には66になるものと予測されている。

今後10年間におけるもう一つの重要な問題は、密出入国者や難民を含めた国際人口移動の増加である。これは豊かな国々と貧しい国々の間に、特に人口成長と経済成長に関する格差がいぜんとして存在することによっている。

さらに、人口高齢化とその社会経済的影響が1980年代の人口問題としてきわめて重要な地位を占めることも確かである。

(国際人口会議の意義)

ブカレスト会議以降、「世界人口行動計画」は各国政府、関連国際機関及び民間団体(NGO)に対して、人口の分野における行動の指

針としての役割りを果たしてきた。しかしながら、世界の社会的、経済的、及び政治的な情勢は大幅に変化し、いくつかの点では改善されたものの、まだ未解決な人口問題が多い。また、新たな人口問題の生起も国際社会の大きな関心と懸念の対象となっている。したがって、これらの人口問題に効果的に対処するために、「世界人口行動計画」の目標や勧告の一部を修正する必要がある。しかし、どのような修正が加えられたとしても、行動のための勧告はすべて「世界人口行動計画」の原則と目標に基づくものである。

2 準備委員会の報告

(1) 準備委員会のアウトライン

1984年1月23～27日 国連本部政府代表……………96ヶ国

国際機関、非政府団体……………31機関

主要議題：

- (イ) 国際人口会議の準備状況報告
- (ロ) 同会議の運営規則
- (ハ) 同会議の議題と日程
- (ニ) 世界人口行動計画のレビューと評価
- (ホ) 同計画の継続実施のための勧告

(2) 国際人口会議の準備状況

- (イ) 1984年8月6～13日、メキシコシティで開催
- (ロ) Plenary Meeting と Main Committee を併行して行う。前者は一般的討議、後者は勧告をまとめる。
- (ハ) 国連通常予算から80万ドル、各国政府拠出金(目標)150万ドル(日本50万ドル)。
- (ニ) 国連地域委員会の準備活動
- (ホ) 専門家会議：①出生力と家族、ニューデリー、1983. 1. 5～11
②人口分布、移動と開発、ハマメ(チュニジア)、1983. 3. 21～25
③人口、資源、環境と開発、ジュネーブ、1983. 4. 25～29
④死亡ならびに保健施策、ローマ、1983. 5. 30～6. 3

- (ヘ) 「各国政府に対する第5次人口調査(1982)」
- (ト) 「人口の動向と政策に関するモニタリング(1983)」
- (チ) 「世界人口行動計画のレビューと評価案」(第2次5カ年レビュー)。
第1次5ヶ年レビューは1979年第20回人口委員会で実施した。
- (リ) 「世界人口行動計画の継続実施のための勧告案」

(3) 「世界人口行動計画のレビューと評価案」

- (イ) 社会経済開発と人口
- (ロ) 人口政策の進展
- (ハ) 人口動向、見通し、目標および政策
- (ニ) 知識の増進
- (ホ) 各国政府および国際機関の役割
- (ヘ) 世界人口行動計画のモニタリング、レビューと評価

(4) 「世界人口行動計画の継続実施のための勧告案」

- (イ) 序論
- (ロ) 将来の行動のための勧告
- (ハ) 将来の実施のための勧告

第47回人口問題審議会総会議事要旨

日 時 昭和38年1月21日(金) 14時～16時

場 所 竹橋会館 丹頂の間

出席者

岩間 英太郎委員	岡崎 陽一委員
木下 剛委員	久保 秀史委員
黒田 俊夫委員	小林 和正委員
柴田 鉄治委員	塚本 哲世委員
縫田 暲子委員	橋本 道夫委員
花岡 堅而委員	東 慎哉委員
菱沼 從尹委員	堀武 直委員
逸見 謙三委員	本城 和彦委員
松永 英委員	松山 英吉委員
安川 正彬委員	山田 雄三委員
阿藤 誠専門委員	河邊 宏専門委員
河野桐果専門委員	山口喜一専門委員
吉沢 晋専門委員	

議 事 概 要

1. 開 会

2. 厚生事務次官挨拶

厚生事務次官の山下でございます。

人口問題は、国の行政の基礎となる重要な問題であります。本審議会におかれましては、昭和28年に発足して以来、この問題につきまして、広い視野からの御審議を進められ、機会あるごとに適切かつ有益な御意見を提出されてきました。その成果は内外の各方面から高く評価されているところであり、この機会に深く敬意を表したいと存じます。

今後の我が国の社会保障における最大の課題は、急速に到来する高齢化社会への対応であります。

厚生省人口問題研究所の将来人口新推計(昭和56年11月)によりますと、出生率の低下傾向等を踏まえて我が国の人口構成の高齢化は一層加速すると推計されております。高齢者の急増・生産年齢人口の割合の低下と中高年齢化、出生率の低下に伴う児童の減少は、社会保障の各分野にも大きな影響を与えることが予想されます。

我が国の社会保障給付費の国民所得に対する割合は、現

在ノ三パーセント程度でありますが、今後の本格的な人口高齢化、年金制度の成熟化に伴って現在の給付水準を維持するだけでも2ノ世紀初頭には20パーセント以上になるものと予想され、そのための費用負担の増大は避けられないものとなっております。

こうしたことから、社会保障のあり方について社会保障長期展望懇談会や第二次臨時行政調査会など各方面から様々な提言がなされております。厚生省といたしましては、これら各方面からの貴重な御意見を踏まえまして、一方において高齢化社会にむかっていますますます重要となる社会保障の役割を念頭に置きつつ、他方において国民の過重な負担を避ける観点から、社会保障全体について重点化、効率化を進めているところであります。

本審議会の委員各位におかれましても、きたるべき高齢化社会にふさわしい社会保障制度の確立について御指導・御支援を賜らんことをお願い申し上げて御挨拶とする次第であります。

3. 委員の紹介（政策課長より、新任の花岡委員、東委員、岡崎委員、再任の篠崎委員、伊部委員の紹介）

々 報告

第8次出産力調査結果について-----阿藤専門委員より報告

5. 第8次出産力調査結果についての質疑応答

山田会長 ただいまの報告について何か御質問、御意見
がありましたらどうぞ。

経田委員 女性の就労と出生力に関するデータについては、
大変興味深く聞かしていただきました。

第8次出産力調査の質問の中に「あなた方ご
夫婦は-----」と聞いておられますね。回答者
は妻ですが、かなり夫の意見が入っていると考
えていいんですね。

阿藤専門委員 実は前回の第7次出産力調査では、同じ質問
表の中で例えば理想子供数について夫の意見と
妻の意見というように夫婦両方に答えてもらう
よう設計しました。ところがノつは調査技術上
非常に問題がありまして例えばアメリカなどの
人口学者がそんな話を聞きますと、そんな調査
をして妻の意見と夫の意見が別々に出るはずは
ないと相手にもしません。同じ質問票に載って
いれば当然調整が働くからそんなことは出るわ

けはない。もし、各々の意見を聞こうと思えば別々の調査票を作ってやるべきだと云うわけですが、それにしても結果としては、第7次調査の場合夫と妻の場合を比べてみると、若干夫の方が多めに出る。例えば平均理想子供数でいいますと、0.2人位、平均予定子供数でも0.1~0.2人位多めに出ることは事実です。ところが、これは私の分析の経験からみると、どうしても最終的な意志決定は妻の方にありそうですし、かなり夫と妻の意見調整があるから、妻の意見の中には当然夫の意見が反映されている。しかも、それほど差がないと云うことであれば、今回は学者の方から批判されるような調査方法はとりたたくなく、同じ質問票で夫、妻各々の意見を聞くことはやめました。

松永 委員

理想子供数が現実の子供数より少ないような回答はありますか。

阿藤専門委員

もちろんあります。ただ、まだここでははっきり分析していないけれども、これで見ましても結構出てくるということは、いわば受胎調節

の失敗といいますが、そういう理由で希望する以上に子供を生みすぎたという人が考えられます。それは、予定子供数の分布をみると女子以上は $\%$ 程度にすぎません。ところが実際の出生児数の分布というのは、女人以上が $\%$ 以上あります。ということは、あとからは肯定するんでしようけど、最初の予定から少し生みすぎたという人がいても不思議ではないと思います。

発展途上国のデータを見ますと理想より高くなるというケースが非常に多い。逆にいえばそれを抑えるため一生懸命家族計画プログラムをやっているということをございます。

日本の場合には、そういう問題はあまりなく数としてもかなり少ないと考えています。

安川委員

この出生力調査の中で、特に意識調査に関係するところは、毎日新聞の世論調査と関係が深いと思います。今回の調査と56年に行った毎日新聞の世論調査の結果をみると、理想子供数については2~3人と伯中しているが、毎日新聞の世論調査を詳しく見せていただいたところ、

子供をすでに持った人達に「もう一人子供をほしいか？」という質問をしたところ、これに対しては、もう一人余計、もう一人追加の子供がほしいという回答が、ここにおけると同じような%は出てくるが、その前の2年前と比べるとだんだん減ってきているという徴候が出ております。

第8次調査の結果は、大体第7次調査の時とあまり変わっていないという説明がありましたけれども、年次別に比較してくる場合にそういう細かい変化というものが起ってくるのではないのでしょうか。

もう一つは、将来の人口のことを考える場合には、これから結婚し子供を生む年齢層の人達が、これからどう行動をとるかということも大切ですのでこれらの人達を対象に調査を行う必要があるのではないのでしょうか。

阿藤専門委員

第7点目ですが、出生力調査と毎日新聞の世論調査のデータでは理想子供数については質問の仕方も大差なく、ある程度比べることができ

ると思っています。ただ前提として標本数が違うので注意が肝要です。出産力調査は、5年に1回とタイムスパンは長いので標本数としては子供を生める1万人前後を調べています。それに対し、毎日新聞の調査は3〜4千件位です。もちろん、太ざっぱな数字を出すには3〜4千件で充分なのですが、細かく分析していきますと誤差が大きくなりますので、即えつを比べるのは無理があります。毎日新聞の調査は、2年置きに行っているので、大勢をみるのに役立つのは良いと思いますが、細かいことはつかみにくいのではないかとと思っています。理想子供数は質問の仕方は共通ですが、追加出生意欲を調べるのには2種類の方法があると考えています。つまり、質問のワーディング(ことば使い)の問題で大部違ってくる場合があります。

出産力調査(第7次、第8次)では、その部分に関して「あと何人子供を生むつもりか」と非常に生々しい聞き方をしています。その方がどうも現実的な答えが返ってきます。それに対

して毎日新聞の調査では「あと何人子供をほしいか」というようなワーディングをしています。過去何回かの調査を比べてみますと、やはり「何人ほしいか」と聞かれれば、あと何人いればなあというふうに若干現実と離れた答が出やすく、「何人子供を生むつもりか」と聞くともっと現実に近い答が出てくるという感じがデータ上生じてくるので、ちょっと比較はしにくいのではないかと思っています。

第2点目については、前回の審議会でもお話しがございましたので、第8次調査では、そういう若い世代の結婚にも焦点を当てる努力を致しました。この調査に「結婚と出産力に関する全国調査」という副題をつけましたのは、結婚ももう少し分析しようということが頭にあったからでございます。この夫婦出産力の調査票の中でも夫婦の結婚に関する質問項目が随分入っています。今回は時間的に間に合わないので報告できませんが、報告書には夫婦の結婚に関する部分についても盛り込まれる予定です。

また、独身者についても充分考えており、近いうちに報告したいと思っています。

松永委員

年齢別のコウホート別に有配偶率が最近どう変ってきたかというデータはございますか。

阿藤専門委員

有配偶率データそのものは昭和50年、昭和55年の国勢調査があります。

年齢別に例えば20～24才の女子の有配偶率が何年は何%と出ます。それをながめてみますと昭和50～55年にかけて、非常に顕著に女子の場合には20代、男子の場合ですと25～34才のグループの未婚者割合が上がっています。逆にいいますと既婚者割合が下がっています。それにともなって有配偶率も大きく下がっています。

松永委員

それが単なる晩婚化であれば出生率には直接関係しないがアメリカや西ヨーロッパのように日本でも生涯結婚しないという人が増えてきているのではないでしょうか。

阿藤専門委員

それにつきましては調査しても簡単にどうなるかわからない性質の問題ですが、私自身もそ

の問題には非常に興味を持っています。

生涯結婚しない人が多いとか少ないという問題を考えるには、相当文化的、歴史的要因を考慮する必要があります。歴史的にみますと非常に西ヨーロッパという社会は特殊でございます。16世紀から1930年頃まで女子でいうと10人に1~2人は生涯結婚しない人があったという特異な社会です。これは経済発展とか産業化とかとあまり関係ない部分がありまして、西ヨーロッパという社会では、独身が平気で暮らせる社会であったということでございます。現在でも生涯未婚率が8~10%と高くなっています。それに対して、非西欧社会といいますが、東ヨーロッパを含めたアジアなどの社会（日本を含む）では伝統的に非常に早婚でかつ誰もが結婚する社会であったわけです。日本の場合、1920年の国勢調査でも、その生涯未婚率が非常に低くなっています。そういう意味で、伝統的には日本の女子も男子も生涯結婚しないということを選べない、あるいは選ばないとい

うような文化が長い間存在したということです。かりに皆が結婚するという前提が変わらないとしますと、晩婚化が止まれば皆んな結婚し始めるからやや高い年齢での結婚確率が上昇を始め、結婚すれば2~3人は子供を産むであろうから、それが即、出生力につながるという結論が引き出されるわけです。もし、日本ではこれからの若い人は、一生独身で暮らす人が10%にも15%にもなるというふうにおっしゃる人があれば、それも1つの判断であろうと申し上げるほかありません。

松永委員

私もその判断においては全く同じで日本人はかなり保守的ではないかと思えます。

しかし、現実を裏付けるデータが有るかどうかということです。国勢調査で出てくる有配偶率の低下というものが単に、晩婚化だけで全部説明できますか。

現実を裏付けるデータがとれるかどうかは、今後の出生力を予測するのに重要な問題ではないかと思えます。

私自身もこの調査を企画・設計するときに、
そういう問題を非常に強く意識しておりました。

夫婦の子供の生み方が変っていない限り、結
婚こそが大問題だということで、結婚パターン
そのものの変化というものをもう少し動態統計
以外に経験的にとらえる必要があるということ
で、それに関する経験的なデータを集めるよう
努力はしていますので近い機会にお知らせする
ことができると思っています。

これに関しましては、例えば総理府の世論調
査がありまして、過去2度ばかり未婚の女子に
対して「あなたは生涯結婚する気があるか、な
いか」という調査を1,000~2,000人位の標本数
で行ったところ25%の女子が「一生独身で暮
らすつもり」という結果が出たということで、
ジャーナリズムでも大きくとりあげられたこと
があります。人口問題研究所としては、もし、
そんなことが本当に起きるとすれば、夫婦だけ
調べても、それで出生率を調べたことにはなら
なくなります。意識とか将来の問題、特に不安

定な若い人に聞く場合は質問のワーディングの問題が非常に影響してくるということで、それをもし私共のような人口研究の専門的な機関が調査をすればもうちょっと違った答が返ってくるだろうと考えています。そういうことで今は申し上げられませんが、いずれそういうデータを鋭意つめてお話しする機会があるうと思っています。

黒田委員

第ノ点は調査の中で非常に良いことをやっていただいたなあとと思うのは、子供の男女別の選択の意識調査についてで、これはきわめて明らかであり、あるいは日本人誰でもがあたりまえだと思ふことでもありますけれども、今の報告の中にも台湾、韓国の問題が出てきたが、台湾の1980年の調査の結果をみると男の子ノ人又は2人、是非ともほしいというのが60%ありました。このことが今の台湾の出生率が23～24まで落ちてきてどうしても下がらない。また、韓国が26～27でもって25まで行く前で足踏みしている人ですけれども、これは男の子をど

うしてもほしいという強いものがあるからで日本の場合、それはアジアの中で一番先に卒業したものと思っていました。これは日本の問題だけでなく国際比較の問題で非常に役に立ちます。

第2点は、出生率がここまで下がってきますと、時系列比較、それから細かい例えば年齢別だとかを今まで以上に注意してやっていただきたいと思っています。例えば妻の年齢別平均理恵子供数(表ク-ノ)ですが、対象数は少ないと思いますがク次からの5年間で20~24才が2.48から2.45に下がっています。その後25から29才、30から34才 35から39才、これは全部上がっているわけで差は非常に少ないのですが一番若い妻の年齢層とその上と違うわけです。これは差は少ないが注意してみなければならぬ数字だと思っています。

調査結果について、出産力の基調は全く変わっていないという説明だが、普通出生率が激減してきたことも事実であり、これが今後長期にわたって社会に大きな影響を与えることも忘れ

てはならない。

葦沼委員

出生率は昨年が底であり今年も横ばいになるのではないかと考えています。理由としては、昨年の出生数及び出生率を、昨年と比べてみますと6～8月は、昨年より昨年の出生数が上廻っています。9～10月はまた下がりましたが出生数、出生率が前年を上廻る月が出てきていることが第1点です。

第2点は、年齢構成の変化、特に結婚適齢期に入る女性人口の大きさがどんどん減っていったのが結局婚姻率を下げています。そして婚姻率も昭和56年が底であって昭和57年は横ばいながら少し増えるのではないかと、それは去年の暮に厚生省統計情報部が発表した婚姻率に関する見込等を見ましても大体納得できるのではないのでしょうか。つまり婚姻率が少し回復すれば、それがおそらく第1児を生むことに響いてくるであろうと予想します。

それは丁度第1次のなだれ現象が昭和25年から始まりまして昭和32年が底になりました。

今度は昭和49年から始まりまして昨年で前の
周期より1年長い8年になります。従って今年
あたりは出生率は横ばいになってもいいのでは
ないかと感じています。

小林委員

今回の集計では初婚同志夫婦だけに限られて
おり再婚夫婦についても引き続き集計されるも
のと思いますが、初婚夫婦を除きますと非常にサ
ンプルが少なくなってしまう。また、今後国
勢調査で10年に1回出産力調査が行われるか
疑問でありますし、この人口問題研究所の出産
力調査は、国勢調査で今までやられてきた調査
よりも詳細な調査であり益々注目され重要性を
増してくる調査であります。そういうことから
次回はもっと大きなサンプルで行うよう努力し
ていただきたい。

6. 報告

(1) 最近の人口動向について ----- 山口専門委員より報告

(2) 第3回アジア太平洋人口会議について

----- 岡崎委員より報告

ク 全体に関する質疑応答

逸見委員

現在、日本政府及び民間で行っている人口に関する国際協力にはどんなものがございませうか。

岡崎委員

一つは、国際連合、特にUNFPAという大きな人口活動基金がありますが、そこにお金を拠出しましてそれが世界の人口問題の解決に使われています。

もう一つは、日本政府と他の国との間で二国間の協力関係がございませうが、これは主として技術援助ということで行っており、人口関係につきましては、例えば家族計画国際協力財団において家族計画と人口計画に関するセミナーを開いて家族計画のプログラムを推進する作戦等色々協力をしています。

それから、国際協力事業団(JICA)においても人口関係の技術援助を行っています。このよりに他国間と二国間両面で行っていますが、財政的援助を他国間、技術的援助を二国間で行っています。

安川委員

日本のかかえる人口の問題は、先程の山下次官のご挨拶にもありましたが、基本的には過密

社会の中で人口の年齢構造が非常に変化していくことだと思えます。この中には、高齢者の所得保障や雇用の問題もございますし、学童人口がどのように変わっていくか、それに対しとどういふ対応をするかという問題もございます。

また、先程黒田先生も忠告的に申し上げておりましたけれども、今回の出産力調査によると、そのまま見ると何も問題がなくて結構でございますと見えるけれども実はそうではない。これから起るべき出生の問題というものが、一体どんなふうに影響していくだろうかということなども考えていかなければならない問題だと思えます。

したがって、そういう年齢構造の変化に対しまして、この審議会は問題点を投げかけていくような審議をしないと折角ある人口問題審議会の存在意識がなくなるのではないかと心配しましたので申し上げたわけであります。

黒田委員

岡崎委員からスリランカの第3回アジア太平洋人口会議の話がありましたが、アジアが人口

問題について世界の大陸の中で最も進歩的とい
いますか、最も前進している、あるいはヨーロッ
パ当たりより前進しているといってもいいかも
しれません。そういうところまで今、アジアが
きているのですが、その中に日本があるとい
うことは、私ども日本として、すでに心掛けてい
なければならぬ問題だと思えます。そういう
中で、来年予定されている国際人口会議に対し
て、日本政府としてはどうすべきかということ
は、この審議会がやはり機動力を持つべきでは
ないかと思えます。国際会議という点では外務
省が担当される訳ですけれども、中身が人口問
題となれば、これは厚生省、それから人口問題
審議会ということになりますので、1974年の
世界人口会議の時もそうです。私は今から対
処していく体制をお作りになることが望ましい
のではないかと思えます。安川先生が年齢構造
の問題をおっしゃいましたけれども、人口高齢
化の問題は日本がまさに世界の中で出してい
かなければならないことだと思えます。国際人口

会議に日本政府は、どう望むかということでは、この審議会が非常に大きな任務を背負われているのではないかと思います。仕事が無くなるどころではなくて、大変なことになるのではないかと私は逆に心配しています。そういうことで、審議会としては、非常に大きな役割を持っているというような印象でございます。

長尾政策課長

事務局が発言するのは大変恐縮でございますが、今の安川先生、黒田先生のご意見、大変事務局としては、有難いご意見だと思われさせていただきますが、卒直に話を申し上げさせていただきたいと思いますが、私共といたしましては、今日報告のございました第8次の出産力調査、それから最近の、さきほど菱沼先生からお話がございましたけれども人口動態等の状況を拝見致しておりますと、やや安心をしておるのが卒直な感じでございます。

もちろん、先生方が人口問題審議会の場で人口問題に関しまして種々のご検討をいただくことを私共がとやかというわけではないわけございま

すが、黒田先生のお話の国際人口会議というものを踏まえてのご議論に関しましては、現在、我が国の財政諸事情を考えますと、その際に非常に大きな制約が、現実には私共に有るだろうと思いますので、そういう意味では従前の世界人口会議に議論いただきましたものと比べますと非常に情勢は厳しいのではないかと、正直申しましてそういうことだろうと思うのでございます。

本城委員

これから世界が、アジアを含めて世界が、おそらく当面しなければならぬ問題は都市化という問題だと思えます。

それは、非常に大きな産業構造の変化の結果でもあります。我が国は、過去20～30年の間に非常に大きな変化を経験したわけです。同じような変化をアジアの都市、アジアの国民が経験するのかというようなことを勉強しておくことは非常に肯定しうるのではないかと思うのです。ことに、例えば中国で現在、強烈な人口抑制をやっています。子供を産まないということは、なにも都市化に関係することではござい

ませんが、なにか非常に大きな変化という例として申し上げます。そうしますと、家庭生活にそれがどういふふうに影響するだろうかとか、非常に大きな問題が次山出てきそうな感じが致します。そういうことを予想しながら、日本の例をよく整理していくということは、国際社会に随分貢献できることではないかと思ひます。

松山委員

ご存じのとおり、今、優生保護の改正問題で非常に国会で議論されています。私のように第一線で産婦人科の臨床に従事している者として、あるいは母子保健活動をしている者としては、非常に関心が大きいわけですが、我々専門の立場から社会的混乱が非常に大きいと考えて反対している者の一人です。その是非論は別として、年間60万件の人工妊娠中絶が届出られているわけですが、これが経済的理由が徹廃されると、そのほとんどができなくなる。簡単に、その数が中絶できなくなるとする、150万の出生数にこの60万を足した数を出生数とせざるを得なくなる。この数が正しいか正しくな

いかは別としまして、そうなってくると将来人口推計というのは、今まで行ってきました人口推計とは全く違ってこざるをえない。同じ厚生省の中で公衆衛生局長は、改正を前向きの方針で検討していると明言しているわけです。当然、これは将来の人口問題に響かざるをえない。また、開発途上国並みの人口問題が出ざるをえないと思うのですが同じ厚生省の中で、この人口問題を担当している課として、そういうことは既に検討されているかどうかお聞きしたい。

長尾政策課長

大変私からは答えにくい質問でございますが、確かに人口問題審議会は、広く、今もおっしゃいました受胎調節に関する事項なり、国民資質向上に関する事項なりをご審議いただくことになっているわけでございますが、先生がおっしゃいましたように現在、公衆衛生審議会の優生保護部会で、この問題につきましての検討が実際に行われているところでございますし、私共の大臣も、また公衆衛生局長が発言しました趣旨も、これは今も審議をいただいております、それから先生

もおっしゃいましたように各方面でさまざまな
ご意見があるわけでございますので、充分意見を
伺ったうえで当省としての意思決定を致した
いということで、今検討中のことでございます
ので、いわば公衆衛生審議会のご審議を待って、
ご判断をしていただくということではなからうか
と思っています。

山田会長

皆さんから活発な意見をうけたまわったわけ
ですが、大分時間も超過しましたので、本日は
これで閉会したいと思います。長時間ありがと
うございました。